

# 笑わなかった少年

小川未明

青空文庫



ある日のこと、学校で先生が、生徒たちに向かつて、  
 「あなたたちはどんなときに、いちばんお父さんや、お母さん  
 がありがたいと思われましたか、そう感じたときのことをお話しくだ  
 さい。」と、おっしゃいました。

みんなは、目をかがやかして、手をあげました。最初にささ  
 れたのは、竹内でありました。

「私が、病気でねていましたとき、お父さんは毎晩めしあが  
 るお好きな酒もお飲みになりました。そして、お母さんは、  
 ご飯もあまりめしあがらず、夜もねむらずにまくらもとにすわつ  
 て、氷まぐらの氷がなくなれば、とりかえたりしてくださいまし

た。僕は、コツ、コツと氷の砕ける音をきいて、しみじみとありがたいと感じました。」と、答えました。

先生は、これをきくと、おうなずきになりました。ほかの生

徒たちも、みんなだまつて、おとなしくきいていました。そのつ

ぎに、さされたのは、佐藤でありました。佐藤が、立ちあがると、

みんなは、どんなことをいうだろうかと、彼の顔を見守つていま

した。

「僕も、やはり竹内くんと同じのであります。いおうと思つた

ことを、竹内くんがみんな話してくれました。」

佐藤の答えは、ただそれだけでありました。先生は、こんど、

小田をおさしになりました。彼は、組じゆうでの乱暴者でした。

そればかりでなく、家が貧乏とみえて、いつも破れた服を着て、破れたくつをはいてきました。くつしたなどは、めつたにはいたことがないのです。みんなの視線は、たちまち、小田の顔の上に集まったのはいうまでもありません。

彼は、立ち上がると、

「私のお母さんは、お金のないときは、自分のだいじなものも売って、僕のためにいろいろなものを買ってくださいます。そんなとき、私はじつにすまないと感じます。」といいました。すると、先生は、

「いろいろなものとは、どんなものですか。」と、おききになりました。小田は、その答えに困ったらしく、しばらく、うつ向

てだまつていましたが、やっと顔を上げると、

「僕の月謝や……また、どこかへ帽子をなくしたときには、お母さんは、自分の着物を売って、買ってくださいました。」と、答えました。

この言葉は、みんなに少なからず動揺をあたえました。なかには、また、くすくす笑うものさえありました。しかし、先生が、笑うものをおしかりなされたので、すぐに静かになつたけれど、小田は、そのとき、みんなから、なんだか侮辱されたような気がして、顔が赤くなりました。

そのとき、ひとり隣に並んで腰をかけている北川だけは、笑いもしなければ、じつとしてまゆひとつ動かさず、まじめにきい

ていました。小田は、心の中で、彼の態度をありがたく思ったのです。

小田のお父さんは、もう死んでしまつて、ありませんでした。ひとりお母さんが、手内職をして、母子は、その日、その日、貧しい生活をつづけていました。

彼は、学校から帰ると、今日のお話をお母さんにしたのでした。その日あつたことは、なんでも帰つてからお母さんに話すのが常でありました。これをきくと、お母さんは、

「あんまり、おまえが家のことを正直にいったものだから、みんなに笑われたのですよ。」と、目に涙をためて、おっしやいました。

「お母<sup>かあ</sup>さんが、僕<sup>ぼく</sup>のために、自分<sup>じぶん</sup>の大事<sup>だいじ</sup>になさっているものもな  
くして、買<sup>か</sup>つてくださるのを、僕<sup>ぼく</sup>がありがたく思<sup>おも</sup>っているといっ  
て、いけないのですか。」

「いえ、正<sup>しょう</sup>直<sup>じき</sup>にいつて、すこしも悪<sup>わる</sup>いことはないんですけど  
……。」

こういつて、お母<sup>かあ</sup>さんは、また目<sup>め</sup>をおふきになりました。

「だが、お母<sup>かあ</sup>さん、笑<sup>わら</sup>ったやつもあつたけど、笑<sup>わら</sup>わないものだつ  
てありましたよ。笑<sup>わら</sup>ったやつは、こんどなぐつてやるのだ。」と、  
小田<sup>おだ</sup>が、いいました。

「そんなことをしてはいけません。おまえが、乱<sup>らん</sup>暴<sup>ぼう</sup>だから、み  
んなが、こんなときに笑<sup>わら</sup>うのです。どちらが正<sup>ただ</sup>しいかわかるとき



がありますから、けっして、そんな乱暴らんぼうをしてはいけません。」  
と、お母かあさんは、おいましめになりました。

小田おだは、考かんがえていましたが、

「ねえ、お母かあさん、いつか、家うちへ遊あそびにきたことのある、北川きたがわくんなどは、だまってきいていましたよ。」といいました。

「よくもののわかる、おりこうなお子こさんですね。」と、お母かあさんは、いつて、また、涙なみだをおふきになりました。

それから、二、三日にちしてからです。小田おだは、学がっこう校へゆく途とちゆ中ちゆうで、あちらからきた、北川きたがわくんに出遇でくわしました。彼かれは、今こ年としから学がっこう校に上がったという、小ちひさな弟おとうとといっしよでありまし  
た。

「おはよう。」

「いつしよにいこうよ。」

「たがいに、声をかけ合つて、三人が、並んで歩きました。そして、学校の門をはいったときであります。」

「ひとりで、パンが買える？」と、北川くんが、立ち止まつて、やさしく弟の顔をのぞくようにして、きいていました。

小さな弟は、だまつて、うなずきました。

「もし、お金を落としたら、兄さんのところへいつてくるのだよ。」と、北川くんは、いつていました。

兄弟を持たない小田は、この仲のいい二人のようすを見て、心からうらやまずにはいられなかつたのです。

「僕たち、お母さんが、かぜをひいてねているので、今日は、弁当を持ってこなかったんだ。」と、北川くんが、小田に向かって、話しました。

そのとき、小田は、また自分のお母さんのことを思わずにはいられませんでした。

「いまごろ、お母さんは、いつしようにけんめいで、お仕事をなさっているだろう……。」「

そう思うと、お母さんの、お仕事をなさっている姿が、目にありと浮かんできて、しぜんと熱い涙がわいてくるのでした。

その日、ちょうど、お昼の前の休み時間でありました。北川の弟さんが、しきりに兄さんをさがしているのを見つけましたか

ら、小田は、大きな声で、

「北川くん！」と、呼んで、知らせたのです。

北川は、すぐに走ってきました。そして、弟のそばへ行って、

なにかいうのをきいていましたが、

「だから、気をつけるようにいったじやないか。」という声がき

こえたかと思うと、小さな弟は、しくしくと泣きだしました。

小田は、弟が、パンのお金を落としたのだなと悟りました。し

かし、いったはずねるまもなく、

「泣かんだって、いいのだよ。」といって、北川が、自分の持

っているお金をやって、弟の頭をなでると、弟は、泣くのをやめ

て、急に、元気づいて、あちらへ駆け出してゆきました。

「なんて、朗らかな兄、弟だろう。」と、小田は、この有り様を見て、感心しました。

そのうちに、話す時間もなく、ベルが鳴ってお教室に入り、授業がはじまりました。

いよいよお昼になって、みんながお弁当を食べるときとなつたのです。ひとり、北川だけは机に向かつて、宿題をしていました。

小田には、なにもかもわかっていました、自分が、パンを食べずに、弟にパンを買ってやったことも。この心があればこそ、このあいだも、自分の話をまじめにきいてくれたのだと、小田は、思いました。

「これが、ほんとうの同どうじよう情じようというものだ。」  
そう小田おだは悟さとると、自分じぶんの行こうい為いまでが顧かえりみられて、これから、  
自分じぶんも、ほんとうの正ただしい、強つよい人にんげん間かんになろうと決けっしん心しんしたの  
でした。

# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第6刷発行

※表題は底本では、「笑《わら》わなかつた少年《しょうねん》」  
となっております。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：仙酔あびす

2012年2月19日作成

2012年9月28日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。



# 笑わなかった少年

小川未明

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>